

磐城毎日新聞

本紙は昭和十一年四月二十二日創刊
 発行所 磐城毎日新聞社
 印刷所 磐城毎日新聞社
 電話 二二七番
 代印所 磐城毎日新聞社
 電話 二二七番
 代印所 磐城毎日新聞社
 電話 二二七番

謹賀新年
 磐城毎日新聞社員一同

八 一 宇



年頭の辭

時代は人を作る、併しながら人は亦時代を創る。生活は思想を決定する。併しながら、思想は亦生活を決定する。時代の生活、人の思想、擧げて新體制……大政翼賛運動に歸一する輝かしき空白の頁を載せて、今日を昭和十六年の元旦は循環り来たつた。

東海の空明けて旭日高く輝き、天地の清氣濺瀾と希望は躍る……こは、正に本年の今日の歳首を謳ふものでなければならぬ。

我等一億國民は、紀元二千六百年の盛典に際し、固く心に誓つた皇運扶翼の誠と、國運隆昌の祈りとをすべてこの新年に於て、その第一歩を踏み出さねばならぬのである。我等は自肅自戒し、徒らなる屠蘇の香に酔ふことなくすべてを擧げて國家に殉ずる心構を堅く持つべきであらう。

支那事變の勃發以來、我々は上下協力一致好、困苦缺乏に堪へて銳意事業の完遂に邁進して来た。然しこれを歐洲列國の戰禍の下に生きる人々と比較する時、我等日本國民は眞に恵まれた自然の環境にあるといはねばならぬ。今や日支新條約が締結され、日滿支三國又共同宣言を發表し、日、獨、伊、洪、羅、ス等の諸國間には同盟成立、東亞の安定勢力日本が、東亞共榮圈に新秩序を打ち樹てる第一歩が振り下されたのである。

我等も又二千六百年の年頭に際し曩に本紙創刊の辭に於て、誓約した新聞報國の念を愈々固くし、内容外観共に整備、大政翼賛運動の一翼と成つて、地方の啓蒙に微力を致す覺悟である。

磐城毎日新聞社

石城郡湯本町(電三番)
入山炭採株式會社
 取締役社長 大貫經次
 事務部長 小山田滋

平市長
石川道一

縣會議員
蓮沼龍輔

平藝妓屋組合

衆議院議員
星野一

賣薬化粧品、醫療器械
 星チエンストア一平支部
ホシ薬舗
 平市三丁目 電話四二九番

磐城炭礦株式會社
 石城郡内郷村 電話二二七・五八六番

有煙無煙石炭業
 木材販賣業 (磐城平市電六三)
高橋龜松商店

古河炭礦業所
 石城郡好間村 電話六四七番

石城郡 小田吉治
 好間村 電話三四四番

平市助役 **伊藤秀吉**

平市収入役 **西野源次郎**

大谷時計店
 平市三丁目 電話一九九番

石城町村長會

片倉製糸株式會社
 石城郡片倉町 電話八一・八二番

石城銀行組合

石城郡各學校長會

平職業紹介所
 所長 立澤高元
 外職員一同

信用平庶民金庫

平運輸株式會社
 平市 電話二一七番

勿來町 大平睦四郎
 農會長 電話五七番

石城郡 青天目信次郎
 勿來町 電話二三番

大日本電力株式會社
平事務所
 電話二五四番

磐城建物株式會社
 取締役 井上貞治郎
 電話六六番

平機械工業組合
 電話七六四番

東北坑木株式會社
 平市三丁目 電話一八一番

貴族院議員 **諸橋久太郎**

和洋銅鐵
釜屋商店
 金物問屋 電話九・九九番

平市四丁目
小野屋藥舗
 電話一四四番

石城郡產馬畜産組合
 組合長 安島重三郎
 副組合長 石城郡山田村

堀江工業株式會社
 鈴木唯治
 電話五一九番

平産婆看護婦學校
 校長 清野キヨ
 南町 電話三〇七番

植田町長
石川道一
 電話十六番

石城郡錦村
 警防團長 **山崎登**

醬油釀造元
 山崎合名會社
 平市 電話二〇二七番

平病院 (平市十五丁目)
 院長 鈴木木定藏

縣會議員
木村守江
 四倉町 電話三五五番

石城町村長會會長
 飯野村長 **伊藤淺之助**

株式會社
關彰商店平支店
 電話六一番

平西料理業組合

平電力株式會社
 電話二九七番

平商友會
 室橋三郎
 比佐三郎

日本藥劑師會代理理事
 福島縣藥劑師會理事
山野邊東次郎
 平市五丁目

縣會議員
關内正一
 平警防團長

磐城無盡株式會社 (平市大町)
 電話三七七・一七

謹賀新年
 無國報

